

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 俊太郎



新年あけましておめでとうございます。

読者の皆様、ご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は米国でも初めて黒人系のオバマ大統領が誕生しました。わが国では55年体制が崩壊し政権交代により民主党の鳩山内閣が成立しました。政治の世界では大きな時代の変革が音を立てて起こり始めています。米国は世界同時不況を招いた金融資本・市場原理主義を否定し、グリーン・ニューディールを初め新たな成長産業の育成を目指しています。一方わが国では鳩山内閣が温室効果ガス排出量の25%削減、高速道路無料化、子育て支援、年金改革、製造業派遣禁止等のマニフェストを実行しようとしています。これらが産業に与える影響が大きいことは間違いなく、それらの変化の兆しをいち早く感じ、企業としてどのように対処できるかが一層重要になると考えております。

米国住宅バブル崩壊を発端に全世界を大混乱に陥れた金融危機も昨年の3月を底に徐々に回復の兆しを示し、国際通貨基金 (IMF) の2010年実質GDP成長率予想では米国、我が国ともプラスとなりましたが、その回復は財政主導による景気の挺入れによるものであり、一つの指標となる失業率の高さを見るとまだまだ自律的な立ち上がりは弱く、

二番底の懸念が払拭されておられません。

それにしても、金融資本主義の申し子達がコンピュータを使い金融工学を駆使して金融・証券商品を作り、高名な格付け会社がトリプルエー (AAA) の評価をすることで、全世界に売りまくり巨額な利益を上げ、その資産規模を膨らし続けた挙句にそのバブルが崩れ全世界を金融危機に陥れました。当社から見れば高名な評価会社がある金融・証券商品にAAAの評価をしたことがこの大きな危機を作り出したように思われます。これらの事実を見るにつけ当社は産業における化学物質の評価の基準になる試薬の製造に従事する会社であり、その使命感とその責任の重さをひしひしと感じています。

「THE CHEMICAL TIMES」は学術誌として昭和25年 (1950) 3月の創刊以来、今年で六十周年を迎えます。今後も益々充実した内容で発行に取り組んでまいります。

社会に積極的に貢献する企業としてその内容が真に誇れる製品を地道に作り続けるとともに科学進歩の一翼を担えるよう鋭意努力して行きます。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。